

農協と組合員をつなぐ広報誌

なかしゅんぱ

謹
賀
新
年



JA中春別

新年号

2017 Vol. 468

謹んで新年の
お祝詞を申し上げます

本年もどうぞよろしく
お願い申し上げます

平成三十九年元旦

代表理事組合長 小湊 保

中春別酪農対策協議会会長

伊藤 一吉 外会員一同

副組合長理事 西川 寛稔

中春別農協青年部部長

兼松 真武 外会員一同

専務理事 佐藤 猛

中春別農協女性部部長

齋藤 道子 外会員一同

常務理事 大山 武永

中春別農協良質生乳生産
推進委員会委員長

藤倉 紀夫 外会員一同

理 (営農生産委員長) 藤倉 紀夫

中春別農協良質粗飼料生産
利用対策委員会委員長

山崎 浩二 外会員一同

理 (総務経済委員長) 望月 英彦

中春別地域河川流域環境保全
推進委員会委員長

藤倉 紀夫 外会員一同

理 伊藤 一吉

中春別乳牛改良同志会会長

竹田 潤外会員一同

理 山崎 浩二

中春別乳牛検定組合組合長

小湊 保外組合員一同

代表 監事 (外) 紫藤 正幸

中春別農協農業後継者対策
協議会会長

藤倉 紀夫 外会員一同

監事 荒 青史

中春別農協年金友の会会長

高橋 昌晴 外会員一同

監事 原内 修

外職員 一同



新年のごあいさつ

将来に向けての 投資と基盤の強化を

中春別農業協同組合 代表理事組合長 小湊 保

明けましておめでとうございます。
平成29年を迎え組合員並びにご家族の皆様へ
謹んでお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと我が国の経済は雇用環境や非製造業を中心とした企業収益は回復傾向にあるものの、依然として個人消費は弱さが見られ内需不振を要因に停滞気味に推移しており、今後の為替変動、マイナス金利政策、原油価格などの景気動向に注視が必要であります。また、熊本県、鳥取県での震災や北海道へ4個の台風が連続して上陸するなど、地域・農業へ甚大な被害をもたらした災害の多い1年であり、当地域においても台風通過による建物等多数被害を受けました。被災された組合員の皆様方には心よりお見舞い申し上げます。

そのような中、1年の生乳生産に直結する収穫調整作業は度重なる大雨、曇天、低温等の影響で1番、2番草とも収量減、品質の低下が見込まれていることから、継続して地区内粗飼料の流通、輸入粗飼料等で粗飼料不足の解消に向け対応して参ります。平成28年度生乳生産実績は11万9741トンで、前年対比102.8%と前年を上回る実績となり、予期せぬ自然災害の多い中、組合員、ご家族の皆様が生乳生産に取り組まれたご努力に対し敬意を表します。

酪農、畜産を取り巻く環境は一昨年10月に大筋合意に至ったTPP交渉は、昨年12月9日に可決・成立したところでありますが、米大統領選において、TPPからの即時脱退を最大公約として掲げた共和党のトランプ候補が当選し、TPP

は現実的に困難な状況となり、今後2国間交渉（FTA）を進める可能性が大きくなっております。また、日欧EPA、東アジア地域包括的経済連携（RCEP）等の貿易協定においても、更なる交渉が強いられる不安が広がっており貿易交渉は一層注視が必要であります。

また、改正農協法が昨年4月に施行され、今後、准組合員事業利用規制等5カ年の期間を経て結論を得る事となり、順次、法改正に伴い整備を進め、併せて3月末には指定生乳生産者団体制度の是非、補給金の交付対象の在り方を規制改革会議農業ワーキンググループより意見が示され、その後、ヒアリングを重ねて11月11日に全農、農協改革、指定団体制度改革の提言文が出されたところにあります。JAが自主自立の組織であること、を踏まえれば異常な介入であると同時に生産現場の実態を把握せず、度を越す刺激を繰り返す規制改革推進会議のメンバーに対し強い憤りを覚えます。党農林幹部と推進会議メンバーとの調整後、自民党農林合同会議で了承した農業競争力化プログラム（原文が、農林水産業地域の活力創造プラン）とし政府決定をいたしました。主な概要は、農協改革集中推進期間に購買、販売の自己改革に向けての年次計画、数値目標の樹立、また3年後に信用事業を担う地域農協を半減する、クミカンの廃止などは削除されました。

一方、指定団体制度改革は生乳流通の機能を維持するものの、補給金の交付は現場の生産者が不公平感のないよう場当たりの利用を認めない、部分委託の問題、条件不利地域の集乳経費の補助な

ど、早急にスキームを設計し50年ぶりの暫定措置法の改正に向け多くの課題を抱える中、今後、本格的な議論が行われます。

酪農経済は補給金単価が引下げられたものの用途別乳価交渉の末、kg当り40銭の特別対策を得てプールで引き上げとなり、3月末見込みでは96円65銭となり過去最高の乳価水準となっております。また、畜産物価格は高値安定で推移し経営の所得向上に大きく寄与しました。この好環境の下で将来に向けての基盤強化、投資を図っていただくようお願いいたします。

今年度の酪農・畜産政策、価格対策は算定方式の見直しの初年度となる補給金単価と交付対象数量の設定が最大の焦点となっておりますが、昨年12月中旬に生産者補給金単価が10円56銭、交付対象数量は350万トンで決定し、単価は前年よりもkg当たり2円増となりました。関連対策は乳用後継牛の確保と生産基盤強化の緊急支援事業、生乳の流通合理化対策、酪農ヘルパー事業等は拡充され、約200億強が予算措置をされました。用途別原料乳価は初夏よりメーカーとの価格交渉を開始し、加工原料乳・チーズ向けを引き上げ、昨年に引き続き特別対策40銭を含めると1円の引き上げで決着いたしました。補給金、用途別を合わせるとプール乳価で2円60銭の上積みとなり、29年度のプール乳価の見直しは過去最高の99円28銭の水準となり、今後増産の投資に向けて意欲の湧く結果となりました。

一方、道内の酪農畜産は高齢化、後継者不足による離農が進み、加えて国際貿易交渉等先行不

透明感があり、生産現場の基盤弱体化のみならず、地域コミュニティの維持も困難な状況になりつつあります。

当組合といたしましても、昨年の総会において平成28～33年度を目標とした地域農業振興計画と第10次中期経営計画「未来ある地域づくりの実践」をスローガンとして樹立し、新たな担い手の確保、育成、支援のため、共和育成牧場を法人化し、研修機能を持つ生産施設を建設し、就農に向けた人材育成、地域内の労働力確保についてご承認をいただきました。総会後は建設に向け、入札、整地を進め9月上旬より施工に入り、3月末の完成を目指し順調に建設作業も進んでおります。

新会社名は公募し理事会において「株式会社なかしゅんべつ未来牧場」と決定し、4月より生産、研修事業をスタートいたします。関係機関との連携により地域目標の共有と取り組みにより生産基盤の生産力向上を図り、地域全体の収益力向上を目指すことを主旨とする畜産クラスター事業も本年で3年目に入ります。施設整備・機械導入・中山間等で685億の予算措置がなされ、国の指導もあり数値などをクリアした中で、整備導入することが必要となり、組合員の皆様にも畜産クラスター事業を活用し、持続可能な酪農を展開していただくようお願いいたします。近年、深刻な自然災害が発生し異常気象が常態化しておりますが、組合員の皆様方には本年が平穏で実り多い1年でありませう様ご祈念申し上げ新年のご挨拶といたします。



平成29年の 年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会 会長 飛田 稔章

組合員並びにJ A 役職員の皆様方には、ご健勝にて輝かしい平成29年の新年を迎えられたものと心よりお慶び申し上げます。

皆様方におかれましては、日々の営農と併せ、地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対して、改めて敬意と感謝を申し上げます次第です。

昨年の北海道農業は、春先からの天候不順、8月中旬から相次いで上陸・接近した4つの台風の影響により、河川の氾濫、農地の流出、関連施設の損壊、停電による生乳廃棄など、全道各地で甚大な農業被害が発生しました。

現在もその傷跡は依然として深く残っており、復旧・復興に向けた懸命な努力が続けられているところです。

今後とも、J A グループ北海道は、組合員の皆様が夢と希望を持つて営農と生活が続けられる環境を整えること、地域農業とJ A の発展に全力でサポートいたします。

また、全農改革を始めとする農協改革並びに指定生産者団体制度のあり方を含めた農業競争力強化プログラムの取り纏め、次期米国大統領ドナルド・トランプ氏のTPP離脱・日米二国間交渉の表明、EUとのEPA交渉の動きなど、我が国の農業・J A にとって先行き不透明感が増大する情勢変化があった一年でした。

J A グループ北海道は、今後とも必要な農政運動や国民理解へ向けての情報発信、J A 経営の基盤を強化し、組合員の皆様の不安を払拭し、持続可能な北海道農業の確立に向け、万全な対応を図って参ります。

さて、現在、J A グループ北海道は、第28回J A 北海道大会のメインテーマである「北海道550万人と共に創る力強い農業と豊かな魅力ある農村」の実現に向けた決議事項に基づき、その着実な実践を図っているところです。

昨年はJ A グループ北海道の実践状況について、全体共有を図るとともに実践への機運を高め、J A グループ内外

に実践状況を発信すべく、J A 北海道大会実践フォーラムを開催致しました。

引き続き、J A グループ北海道の英知を結集し、北海道550万人から信頼され、ともに歩んでいくJ A グループ北海道を目指して参ります。

関係各位の特段なるご理解とご協力の程、宜しくお願ひ申し上げます。

一方、農業情勢では、世界規模での異常気象の発生、人口増加、経済情勢の変化などを背景に、国際的な食料の需給事情は常に不安定な要因を抱えており、我が国として、先を見据えた中で食料自給率の確保などによる食料の安全保障体制をいかに確立していくかが問われています。

言うまでもなく、農業は、食料の安定供給という、国民生活に欠かすことができない極めて重要な役割を担っている生命産業であり、その役割は未来永劫変わることはありません。

J A グループ北海道は、その責任感と自負心のもと、あらためて協同と相互扶助の精神に立ち返った中で、現下のさまざまな課題を克服すべく、力を合わせていく時であります。さらに農業・J A に対する幅広い理解と共感を得るべく道民550万人サポーターづくりの取組みを積極的に進めながら、自己改革を加速させ、長年にわたり先人が築き上げてきた本道農業並びにJ A の基盤をさらに発展させ、後世に継承できるよう努力して参ります。

結びになりますが、今年の干支は丁酉(ひのと)です。一説には、丁は、「安定する」という意味があり、酉は「果実」などが成熟し実る状態を表しているとのことであります。

今年はこの酉年にあやかり、天候に恵まれ実り多い安定した一年となりますよう、併せて、北海道農業並びに組合員、役職員の皆様の一層の発展を心よりご祈念申し上げます。新年にあたってのご挨拶といたします。

新年のご挨拶



生産者の声を中央へ届ける酪対活動

中春別酪農対策協議会 会長 伊藤 一吉

新年明けましておめでとうございます。新春を迎え會員並びにご家族の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと謹んでお慶び申し上げます。また、日頃より当会の事業に対しまして特段なるご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年の酪農情勢を振り返りますと、用途別原料乳価については全用途据置で決定されましたが、用途別仕向け量調整によりプール乳価は20銭(税込)引き上げられ農協平均では96円台に到達し、畜産物価格においても初妊牛平均取引価格が90万円を超えるなど、経営基盤の構築につながる1年であったかと思われまします。一方、天候は6月の低温・長雨により牧草の生育が悪く、1番草収穫が例年より1週間程度遅れ、2番草収穫期には台風などの影響により例年の5倍程の雨量が観測され、収穫作業に大幅な遅れが生じました。本道を通じた台風被害は、農林漁業者だけではなく消費者や事業者にも重大な影響を及ぼし、激甚災害として指定を受け、更には4月に九州地方で熊本地震が発生するなど、昨年は災害の多い一年であったかと思われまします。被災された皆様ならびに會員皆様には心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。

国内外に目を向けますと、一昨年に大筋合意したTPPについては2月に参加12カ国が署名したものの、米国次期大統領ドナルド・トランプ氏のTPP離脱表明により先行き不透明感が増しており、今後の2国間貿易協定の動きや日欧EPA交渉についても注視が必要であります。また、規制改革推進会議・農業ワーキンググループがまとめた指定生乳生産者団体制度の見直しについても与党決議としてクミカン制度の廃止や信用事業に関する項目は

削除されたものの、我々酪農家の不安を払拭できる内容に至っていないことから、今後、益々丁寧な説明と協議を求めています。

昨年の酪対活動につきましては、7月と11月に農林水産省生産局との意見交換を実施し、合わせて道内選出国會議員への要請活動を行い、環境保全対策や担い手対策、畜産クラスター関連事業等、生産者の声を直接中央に届け、政策提案を積極的に行ないながら情報収集に努めました。11月には北海道農政部に出向き、中司道議と道農政部との意見交換を行い精力的に活動させていただきました。消費拡大運動としては、夢都里路クラブ企画で生協組合員との意見交換を実施し、女性部、青年部の消費拡大運動に協賛させていただきました。

生乳生産については、第9期生乳安定生産対策(北海道生乳生産基盤安定供給強化対策)の2年目となり、前年度実績103%を基本に取り進められておりますが、8月以降の高温多湿・台風上陸の影響、さらには粗飼料品質など、今後の生乳生産への影響が心配されることにより、広大な草地の中で中春別地域が一体となり、良質な粗飼料・生乳生産の出荷に取組み、「人・牛・飼料」づくりによる地域の基盤構築が、未来ある地域づくりにつながるものと思われまします。

本年度も、地域で抱える諸課題が少しでも解消されるよう、各関係団体と連携を図りながら継続的な運動を展開して参りたいと思ひます。會員並びにご家族の皆様にはご理解とご協力をお願い申し上げますと共に、御健勝で豊穰の秋を迎える事が出来ますよう心からご祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。



中春別農協青年部
部長 兼松 真武

新年あけましておめでと
うございます。

当青年部活動に対しまし
て組合員皆様はじめ農協や
関係機関の皆様には、日頃
よりご理解とご協力を承り
厚くお礼申し上げます。
昨年をふりかえりますと



中春別農協女性部
部長 齋藤 道子

新年明けましておめでと
うございます。ご家族お揃い
で輝かしい新春をお迎える
事と謹んでお慶び申し上げ
ます。

日頃より女性部活動に対
しましては、農協をはじめ、
各関係機関の皆様には多大

新年のご挨拶 溢れるパワーを明日の活力へ

台風や長雨等の天候不順に
よる牧草品質の低下や収量
減、乳房炎等の疾病の多発
などにより乳牛の飼養管理
や乳質の安定確保に苦慮し
た1年となりました。

そのような状況下の中、
青年部では、中春別の小、中
学生を対象に募集した標語
のロールバックメッセージの
作成、道東あさひ農協青年

部との合同消費拡大企画「夏
の牛乳大作戦」は例年の野
付ネイチャーセンターに加
え、今年は初の試みで弟子
屈町、道の駅「摩周温泉」で
も乳製品ミルクランドグッ
ズの配布をいたしました。
また、道内、管内視察、各種
勉強会を通して営農知識を
より深めて、10月には「青年
部音楽イベント」を通じて盟

友同士や異業種の方々との
交流を図る等、様々な事業
に取り組んでまいりました。

また、着ぐるみの「新モー
ちゃん」誕生に際しては農
協はじめ酪対、女性部の皆
様にご理解とご協力をいた
だき誠にありがとうございました。

恒例となりました女性部
合同でのお中元・お歳暮ギ
フトも多数の注文をいただ
き皆様のご協力に心より感
謝いたします。
平成28事業年度も残すと

きました。

また、牛乳乳製品の消費
拡大運動、青年部とお中元・
お歳暮作り、共進会で好評
のミルク豚汁、収穫祭でのミ
ルクシチューなどの各行事
活動をしながら心いやされ
るフラワーアレンジメント
をしたり、花寄せ植え・花壇
作り・お菓子作りなどいた
しました。それぞれが仕事・

家事・育児・介護などで忙し
い中、女性部の活動に参加
していただきました。今後も
とうございました。今後も
交流を深め、女性パワーを

新年のご挨拶

交流を深め、女性パワーを発揮

なるご指導、ご協力を賜り
厚くお礼申し上げます。

平成28年を振り返ります
と、北海道は長雨に台風10
号など4つの台風が上陸し、
記録的な自然災害となり、
河川の氾濫、畜舎や農地の
浸水など、農業畜産分野に
多大な被害をもたらしまし
た。消費者の信頼に込め安全
安心な国産畜産物を将来に
わたって安定的に供給でき

るように地域農業を支えら
れるようみんなが助け合い、
豊かで暮らしやすい地域づ
くりができる女性部である
よう心をひとつに頑張りたい
と思います。

勉強会・研修旅行ではホ
クレンくるるの杜へ行き、木
のぬくもりを感じる店内で、
ホクレンから直送している
新鮮野菜料理や北海道産の
食材を使った料理をいた

ころ3カ月となりましたが
青年部一同、これからも一層
気を引き締めて各活動に取
り組んでまいりますので皆
様方におかれましては今後
ともご指導の程お願い申し
上げ、新年の挨拶とかえさ
せていただきます。



発揮し、厳しい時代を乗り
越えることのできるJA女
性部組織を目指して取り組
んで参りたいと思っております。本年も私達女性部は
より一層活発な組織活動を
展開して参りますので、ど
うぞ宜しくお願い致します。
また、新規加入も随時歓迎
しております。

皆様のご健康とご多幸を
心からお祈り申し上げます。
年の挨拶いたします。

新年のご挨拶



乳牛改良と飼養管理技術の 向上を目指し

中春別乳牛改良同志会 会長 竹田 潤

2017年、新年を迎えるにあたり日頃より格段のご理解、ご協力、ご指導を賜りました皆様へ謹んでお慶び申し上げます。

また、当同志会事業推進につきましては農協をはじめ、各関係所機関の皆様にも多大なるご協力をいただき、役員、会員一同、心より感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、乳価、個体販売が好調に推移する一方、夏場の天候不順により牧草収穫作業が大きくずれ込み、道内各地においても大雨による甚大な災害が発生し天候に悩まされる年となりました。

また、国外に目を向けますとアメリカ次期大統領のTPP離脱表明が報道される中、承認案・関連法案が成立、日欧EPA交渉など、我々酪農家を取り巻く情勢は日々刻々と変化し続けております。我々同志会ではこのような状況下の中でも安定的な酪農経営を図るため、乳牛改良や飼養管理技術の更なる向上を目指し活動して参りました。

昨年の事業として、会員の更なる知識・技術向上を目的に「女性視察研修」、「酪農講習会」、「酪農視察研修」の開催、多くの組合員や地域の皆様にもショウや乳牛改良に触れ興味を持つていただけよう、組合日より紙面上で「ホルスタイン写真コンテスト」を開催いたしました。

また、管内、北海道各協議会事業にも精力的に参加し、多くの会員が乳牛改良の知識、技術を深めて参りました。そのような活動が実を結び各種BWショウや共進会において中春別ホルスタインが活躍し、新規エクスレント獲得牛も6頭、累計226頭を数え素晴らしい成果を上げる事ができました。

本年も乳牛改良と酪農経営の融合し「中春別」に根差した活動を展開して参りますので、組合員・農協・各関係諸機関の皆様におかれましては、変わらぬご理解とお力添えを節にお願ひ申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



平成28年 新規エクセレント獲得牛

累計226頭

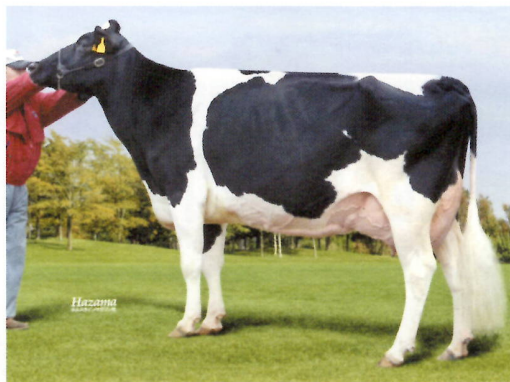
EX-91
8-02



サンファーム エルドロード アツシユリン

H19.12.8生
6-08 305 M11,515kg F3.6% P2.9% SNF8.4%
父:テイクア チャンス アツシユリン ET
母:サンファーム エルドロード スクリーチ ロン
寺澤 信 所有

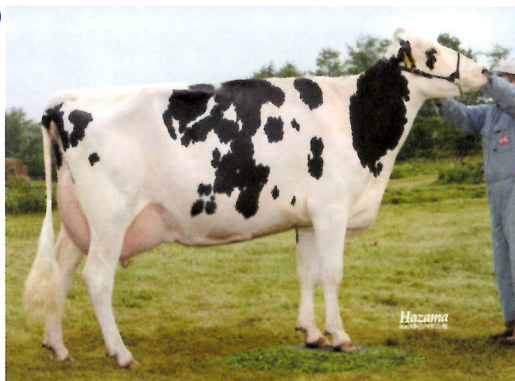
EX-90
5-06
7代EX
獲得



アビリティファーム ミンティア ピーターチェ

H22.9.3生
4-02 305 M9,809kg F3.9% P3.7% SNF9.3%
父:デューダム サプライズ
母:アビリティファーム ジヤスミン ピーターチェ EX-91
5代:アビリティファーム アクトレス ピーターチェ EX-91
4代:アビリティファーム ストーム ピーターチェ EX-92
3代:アビリティファーム リンデイ ピーターチェ EX-90
2代:アビリティファーム ポテント ピーターチェ EX-92
初代:アビリティファーム クリス ピーターチェ EX-91
橋本 幸二 所有

EX-90
4-04



アビリティファーム アスター デイジー

H24.2.27生
3-02 299 M9,031kg F4.2% P3.3% SNF8.9%
父:リンカーンヒル ショット レイザー ET
母:アビリティファーム アスター ジュリア
橋本 幸二 所有

EX-90
6-05



プレステージ ラスト チャンス ET

H22.4.7生
5-01 305 M10,476kg F4.4% P3.4% SNF8.7%
父:マコンバー オーマン ボガート
母:ジレット ショトル ルック アツト ミー ET
久保 光大 所有

EX-90
4-04
4代EX
獲得



アビリティファーム DDJ ウイランド

H24.7.13生
2-11 305 M10,731kg F4.4% P3.4% SNF8.9%
父:ジレット ウインドブルック ET
母:アビリティファーム DDJ バージニア EX-90
2代:アビリティファーム デイデিজエイ センター ポール EX-90
初代:アビリティファーム デイデিজエイ バージョン EX-90
橋本 幸二 所有

EX-90
6-02
2代EX
獲得



スイートブライアー サンシャイン ゴテン 08 ET

H22.9.25生
4-06 305 M9,689kg F4.0% P3.3% SNF8.8%
父:プレイデル ゴールドウイン
母:スイートブライアー サンシャイン タイ ET EX-92
竹田 潤 所有

平成29年度

酪農畜産関連対策に関する意見交換 並びに国会議員への要請を実施

中春別酪農対策協議会（伊藤一吉会長）による農政運動を11月14日～16日に実施いたしました。

1日目 農水省との意見交換

初日は農林水産省との意見交換を実施し、伊藤会長より当地区の近況や概要について説明を行い、畜産クラスター関連事業の予算確

保や法人化要件の撤廃、国営かんがい排水事業の予算継続確保、担い手対策の充実などについて意見交換を行いました。

2日目 道内選出議員へ要請活動

2日目は道内選出議員への要請活動を実施し、各議員に政策提案書を提出し畜産クラスター関連事業や国営かんがい排水事業予算継続確保、スーパージン償還年限の延長、担い手対策の充実について要請活動をいたしました。

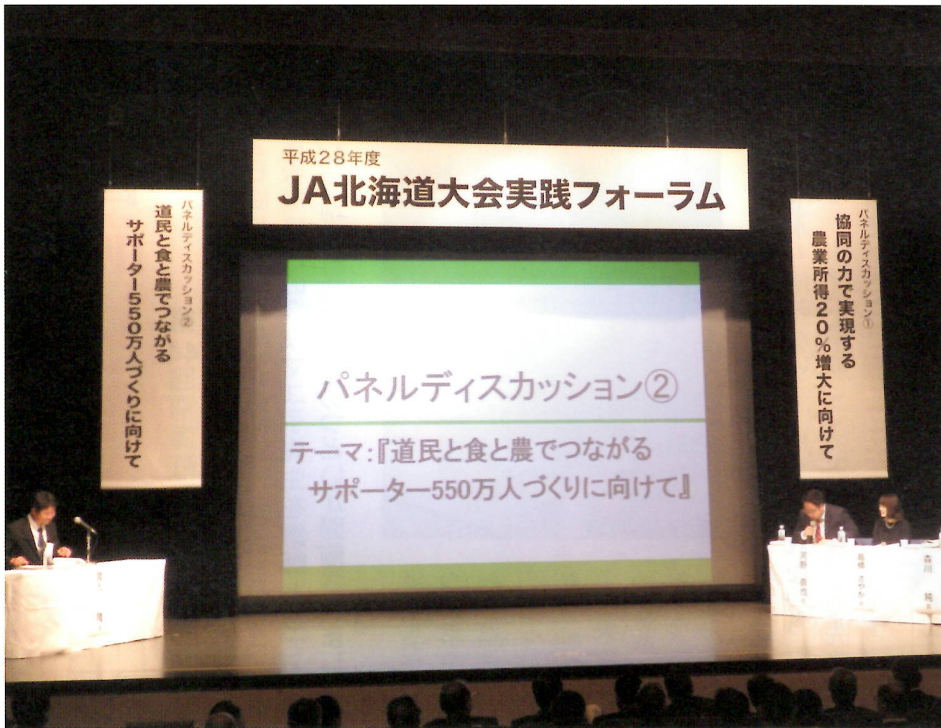
（要請者）

会長 伊藤 一吉
副会長 渡邊 覚
常任委員 山田 晃嗣
JA中春別組合長理事 西川 寛稔
事務局 水谷計5人



北海道550万人と共に創る「力強い農業」の実現

11月2日(水)に札幌市共済ホールでJA北海道大会実践フォーラムが開催され、兼松貞武中春別農協青年部部长、斎藤道子中春別農協女性部部长が出席しました。



JA北海道大会
実践フォーラム



「農業所得20%増大」と
「新規担い手倍増」

JA北海道大会実践フォーラムは、北海道550万人と共に創る「力強い農業」の実現のため開催され、基本目標1として協同の力で「農業所得20%増大」と「新規担い手倍増」を実現、基本目標2として食と農を通じ



て北海道550万人と「つながり」を実現という目標を立てました。

パネルディスカッション①では、販売の面、営農指導、物流のコストについて行われました。パネルディスカッション②では、道民と食と農でつながるサポーター550万人づくりに向けてというテーマで行われました。ここでは伝える相手がだれか明確にする、漁協との関わりをもつ、消費者に旬の物を知ってもらう、消費者との出会いの場を増やすな



どが挙げられ、その中には伝える難しさがあることを学びました。

最後にJAグループ、北海道農業協同組合中央会内田和幸副会長、北海道信用農業協同組合連合会長谷川幸男経営管理委員会会長、ホクレン農業協同組合連合会佐藤俊彰代表理事会長、北海道厚生農業協同組合連合会小野寺仁代表理事会長の4人からのメッセージで閉会しました。

今は”災害後”ではなく ”災害前”と考える

第44回別海町酪農女性部のつどい

12月2日(金)に別海中央公民館にて、株式会社オフィリスR M代表取締役の今泉マユ子先生を講師としてお招きし、第44回別海町酪農女性部のつどいが開催されました。



今回は”災害時に役立つ

災害食”火や水も使わないレシピ”をテーマに参加型の講演をしていただきました。

まず説明していただいたのは”災害食”という言葉で、以前まで使われていた”非常食”との違いは、災害食はより日常に近い食事ができるように備蓄しておく食品だということです。今泉先生自身も東日本大震災を経験し、ライフラインのない被

災生活で役立つ食事が必要だと感じたこと、実際被災地では野菜・果物を求める声が多くあり、しかし、それらは自分で備蓄しなければ食べられないものでした。災害を経験した先生から教えてもらった災害食は火も



水も使わないレシピです。アルファ化米の五目御飯を水で戻したものと、野菜ジュースで戻したものの、ツナと切り干し大根のマヨ和え、イカと大豆とひじきの煮物風、ミックスビーンズあんこ玉、そしてスイーツ缶のチーズケーキとガトーショコラを試食しました。どの料理も混ぜるだけで調理でき、普段の食事と変わらない美味しさでした。参加された方達からは「手軽でおいしいので、普段の食事に取り入れたい!」との感想などがあ



がりました。

お部屋に彩りをあたえてくれる 温かいアレンジメントができました

女性部では12月15日(木)にフラワールームえみの渡辺正樹さんを講師にお招きし、フラワーアレンジメントを行いました。



毎年恒例となつたこの行事

には毎年、たくさんの方々が参加してくれれます。今年も多くの方が参加してくれました。クリスマスのは、中央に大きなロウソクを立て周りにバラ・カーネーションで赤い色を、その周りに白い花を飾ればフラワーアレンジの完成です。緑色の中に赤と白が映えてクリスマスらしい素敵な作品ができあがりました。クリスマスを過ぎたらお正月向けにアレンジをします。松や菊を飾ればあつという間にお正月らしいフラワーアレンジができあがります。年末年始、雪が降る中で、部屋に彩りを与えてくれることでしょう。



探してみよう、乾乳期にできること!

11月に北根室地区農業改良協議会が主催した酪農セミナーの内容から、乾乳管理のポイントをまとめました。ほ場作業が落ち着く冬の間、乾乳管理について、もう一度見直してみましよう!



根室農業改良普及センター 営農対策情報

ポイント1「栄養」

代謝タンパク質(飼料由来のタンパク質+反芻胃内の微生物由来のタンパク質)を充足させる

乾物摂取量を大きく低下させないことが大前提ですが、タンパク質も胎児の成長や、分娩後に備えた筋肉の保持のために重要です。太りすぎないようにエネルギーを抑えつつ、粗飼料の栄養価に応じた単味飼料を給与して代謝タンパク質を充足させましよう。

良質な粗飼料を与える

酪酸が検出されたサイレージの給与は、ケトosisのリスクを高めます。良質なものがない場合は、乾草の併給などの対策を考えましよう。

ポイント2「施設」

雪の吹き込み対策

軒下から雪が吹き込む環境では、牛舎内を快適には保てません。牛舎の新築時に限られますが、軒の開口部に図のような吹き込み防止板を取り付ければ、雪の吹き込みを解消できます。

冬のフリーバーンは要注意!

コンクリートの上の敷料は、下からだんだんと凍結していることもあります。マットの敷設(写真)によって底冷えを防げば、母牛の横臥時間が増え、子宮への血流と胎児への栄養供給が増加するので、死産のリスクを低減できます。

暑熱対策

乾乳期間中の暑熱対策は乾物摂取量の増加につながり、分娩後のトラブル減少や乳量アップが期待できます。春先にすぐに対策できるよう、換気扇や遮光ネットの取付を検討しておきましよう。

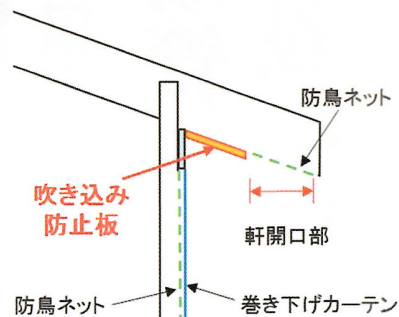


図 雪の吹き込み対策(H24根釧農試原図)



写真 底冷え対策でマットを敷設

ポイント3「管理」

周産期の過密は厳禁!

起立不能や第四胃変位の発生リスクは、休息スペースが狭いと高くなります。

敷料は厚く敷く!

起立不能の発生リスクは、飼養密度が狭くても敷料が厚ければ(15cm以上)リスクが下がる傾向もあります(根釧農試アンケート調査より)。どうしても混雑する時期は、敷料を厚くするなどの管理で、トラブルを回避しましよう!

ぼーっと立っている牛は要注意!

乾乳牛は、寝ているか、起きて食べるか反芻しているか、常に何かの行動をとっているべきです。ぼーっと立っている牛がいる場合は、必ず理由があるはず。ストレスなく「寝て」「起きて」「食べる」環境か、もう一度チェックしてみましよう!



中春別乳牛改良同志会(竹田潤会長)では11月21日(月)23日(水)の3日間で、乳牛改良技術等の研鑽と向上を目指すため酪農視察研修を開催しました。

帯広市・野原幸治牧場 自動換気システム 「SECCO」設置

1日目は、帯広市の野原幸治牧場を視察させていた



帯広市 野原幸治牧場



自動で作動するエアカーテン

だきました。野原牧場は総頭数165頭(経産牛99頭、

中春別乳牛改良同志会酪農視察研修

これからの牧場管理に 繋がる有意義な視察

中西 裕哉

未經産牛66頭を飼養しており、平均乳量は1頭当たり約9500kgとのこと。給餌方法はTMRを主体とし、近年は近隣の畑作農家の休耕地にデントコーンを作付けしてもらい、子実部分のみを収穫するエアコーンサイレージを給与していました。また、平成25年に牛舎を新築し、日本初導入となる自動換気システム「SECCO」が設置されました。牛舎内にセンサーが数箇所設置されており、壁のエアカー

テンが伸び縮みすることで自動的に換気される仕組みです。飼養されている牛達は本当に綺麗に管理されており、畑作農家の多い十勝ならではの酪農と畑作の連携が見られました。



牛舎内は空気が流れ明るい

青年部・女性部合同 お歳暮オリジナルギフト お礼と結果

(注文総数277セットが
全国各地に発送されました!)

今回も青年部・女性部合同お歳暮オリジナルギフトの取りまとめの後、12月5日(月)に株べつかい乳業興社様のエントランスホールをお借りして発送作業を行いました。

発送作業には青年部・女性部併せて11人が集まり、一つ一つ真心を込めて丁寧に梱包作業を進めて全国各地に向けて発送されました。今年度はなかしゅんミルクロールセット、乳製品セット、乳(ミルク)ほた餃子セットの3セットを作成し、地区内の各家庭に訪問しチラシを配布しました。

各セットの結果は、な

**北広島市・岩田政彦牧場
2016全道共進会**

**リザーブ・グラント・
チャンピオンを輩出**

2日目は、まず北広島市の岩田政彦牧場を視察させていただきました。岩田牧場は総頭数130頭(経産牛90頭、未経産牛40頭)を飼養されており、平均乳量は1頭当たり約9300kgとのこと。岩田牧場は今年の北海道ホルスタインナショナルシヨウにおいて、「グランデール アストロ



北広島市 岩田政彦牧場



大人しい牛群

江別市・

**ヤンマーアグリジャパン(株)
北海道カンパニー**

次に江別市のヤンマーアグリジャパン(株)北海道カンパニーを視察させていただきました。中春別でも多く使用されているトラクター、ハーベスター、作業機を輸入、製造、販売をしています。工場中には200馬力を超えるトラクター、新

型のハーベスターもありました。あいにく視察当日は天候が悪かったため、工場前でのトラクターの試乗となりましたが、天候が良いと畑で作業機を付け試乗できるそうです。

シヨウでも上位に入賞する有名な両牧場を視察し、最新の酪農作業機を目にし、これらの牧場管理に繋がる有意義な視察となりました。

最後に今回視察させていだきました野原幸治様、岩田

ルデイー ロイ」号がリザーブ・グラント・チャンピオンに輝いております。牛舎内は麦稈がふんだんに使われ、E X牛など素晴らしい牛達が繋がっていました。育成は広尾町に預託されているようで、初産の段階から牛が大きく感じました。視察時も牛達はリラックスしていて、大人しく、普段から牛に対する接し方、管理の良さがわかりました。



ヤンマーの概要を学びました



多くの作業機が組み立てられました



かしゅんミルクロールセット64セット、乳製品セット95セット、乳(ミルク)ほた餃子セット118セット、合計277セットの注文を賜りまして皆様のご協力で、たくさんセット数を発送することができました。来年度以降も皆さまに喜んでいただけるようなオリジナルギフトセットづくりを目指していきますので、これからもご協力の程よろしくお願いたします。



ポニーとともに親子で楽しんで 乗馬体験

中春別へきち保育園「親子乗馬体験」

雪がちりちりく寒い中、中春別へきち保育園お楽しみ会による「親子乗馬体験」が12月9日(金)に行われました。

昔はこの農家でも畑を耕したり、交通の足として馬を飼っていたのですが、今は飼育する人もいなく、ふれ合う機会もなかったのですが、町外の保育園で乗馬体験をしているということが父母の会で話題となり、中標津ポニー同好会からポニー9頭がやってきました。

園児たちは窓の外にポニーとガイドさんが一緒にグラウンドを歩いている姿を見て「わあ、馬だ！可愛いー」とおおはしやぎ。

早速、外に出て間近で見て触ったポニーの匂いとぬくもりに、園児たちは感激の様子。また、初めて馬の背に乗って目の高さが変わったことから少しの怖さと、ポニーの温かさに驚き目をパチクリ。乗りなれてくると「もう一回乗りたいー」と大人気、寒さもどこかへ飛んでいった様子。また、馬ソリは親子で一緒に乗ったり、お父さんが手綱をひいたり、こちらも大人気となり、園児たちの初体験づくしの楽しい1日となりました。



ミルク王国の王様からプレゼント



な声で「ありがとうございます！」と元気よくお礼をする。「みなさんは本当に元気ですね、これからお父さん、お母さんの言うことをちゃんと聞いて、好き嫌いしないで食べてください」

ちよつと早めのメリークリスマス

中春別へきち保育園と豊原へきち保育園で12月20日(火)、ミルク王国の王様から少し早めのクリスマスプレゼントが園児たちに贈られました。

子どもたちは初めてみる王様に少し緊張気味の様子でしたが、質問タイムになると「王様はどこから来たの？」と質問すると、「遠い国からきたんだよ、みんなも大人になったらいけるよ」と答え、中でも一番多かった質問は「好きな食べ物は何ですか？」でした。「好きな食べ物はね、牛乳とチーズとヨーグルト、最近はおみかんも好きだよ」と答えると「私もヨーグルトだいすき！」と子どもたちは王様とたくさんのお話をしました。



さいね」と笑顔でミルク王国へ帰っていききました。

木のぬくもり溢れる校舎へ
生まれ変わりました

中春別中学校
落成式



全景



体育館の全景

体育館は、設備が充実したことで部活動の良い成績を残せるように頑張りたいです」と、これからの真新しい校舎での学校生活に期待を膨らませていました。



生徒代表の牧野あさひさんから来賓、関係者へお礼の言葉がありました

中春別中学校校舎・屋内体育館改築落成式典が12月17日(土)行われ、多くの来賓や工事関係者、学校関係者、学校卒業生、PTAなど関係者が招かれ出席しました。式典では、町長の式辞を始め、高橋校長から「中春別

中学校は床丹第一、第二、中春別中学校が昭和42年に統合し、今年で50年目を迎えます。平成25年に改修工事が着工開始しました。生徒が学習環境はもとより過ごしやすい施設となるよう吹き抜けからは自然光を取り入れ、道産木材を使用し優しさとおぬくもりのある新校舎が誕生しました」と挨拶がありました。また、在校生を代表して牧野あさひさんより「新校舎の建設に携わった多くの方に感謝し、いつまでも綺麗に使いつづけます。

JAグループ通信

JAグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。

JA北海道大会決議事項の実践やその時々の特ピックスなど、組合員の皆様に定期的にお伝えします。

各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

JA北海道中央会

HBCラジオ「秋の恵みに感謝カンゲキ！北海道農業応援スペシャル！！」（11月3日）を通して、農業の魅力を一日中発信し続けました。

寄せられたメッセージは4566件。内田副会長がグリーンツーリズムなどについてお話しをされた、カーナビラジオ公開生放送には、のべ400人が来場と、大盛況。スマートフォンアプリ「JA2MP」

では、道内の生産者や直売所を巡る中継キャラバン等の期間限定お宝画像も発信。地域との繋がりが感られるサポーター550万人づくりへの貴重な一日となりました。



JA北海道信連

11月に農業経営者支援の一環として「農業経営フォーラム」を開催。

「あぐり王国」の森崎博之氏が所属する(株)クリエイティブオフィスキュー 鈴木代表に「道内農業の魅力の再発見と発信」を、学習院女子大学 江口名誉教授に「道内農業に求められるマーケティング発想」を講演頂き、参加者からは「農業経営のヒントを得た」「農業の魅力を探求する姿に感銘を受けた」など好評をいただきました。



ホクレン

全道のホクレンSSで平成28年7月～9月に展開した「2016『ラブ&ハート』チャリティキャンペーン」に寄せられた募金と一部売上を、総額300万円を北海道社会福祉協議会へ寄託しました。今年で35回目の当キャンペーンは、社会貢献活動「ホクレンシーズプロジェクト」の一環。道内約780の児童保育施設に、絵本や文学書の購入費用としてご利用いただけます。



JA共済連北海道

生命共済と傷害共済で、入院・通院共済金をご請求していただく場合、診断書取得・提出をいただいておりますが、所定の条件を満たせば「治療報告書制度」による自己申告と領収書提出のみで共済金をご請求いただけます。

病院で診断書を取得する手間や費用負担も無くなり、共済金ご請求までの時間が短縮できるメリットがございますのでご利用ください。ご利用条件については、ご加入先のJAへお問い合わせください。

JA北海道厚生連

平日に時間がとれない方へ、完全予約制の土曜日健診を開始しました。

【旭川】毎月第2・4土曜「土曜ドック」を実施。（男性対象：各種オプション検査可能）随時予約受付中ですので、お電話でお問い合わせください。（TEL 01661331717）

【札幌】毎月第2土曜に「脾臓・胆のうドック」を実施中。（TEL 0111125115713）

【帯広】オプション検査「脳ドック」を平成29年1月より毎月第2土曜に実施いたします。（TEL 015512414161）



●【経営科】カナダ酪農を視察!

11月6日(日)～11月14日(月)の9日間、平成28年度海外視察研修に、生徒1人、引率教員1人で参加しました。今年で3年目となるカナダ視察研修です。今年、前半でケベック州の牧場見学2軒とナイアガラ周辺の牧場1軒を視察し、後半はロイヤル・ウインターフェアを視察しました。



ペティシエレルク牧場の様子

視察した酪農家はいずれも経営方針に独自性があり、正に『牛に対する情熱と家族経営に対する愛情が感じられる酪農家』ばかりでした。

1軒目のペティシエレルクホルスタインファームは、施設に工夫が多く見られ、育成舎に関しては、外部から鳥が侵入しても留まるところがないので、糞の被害がほとんどないという話をお聞きしました。また、EX93点の牛を筆頭に、体型審査において優秀な牛が多く、実際に見た生徒も「サイズが日本とは全く違う」と感銘を受けていました。2軒目のジェイコブス牧場も、共進会に力を入れる「ショー命」の牧場で、個体と授精卵の販売も多く行っていました。牛体管理に関してもこだわりがあり、肢蹄の疾病を予防するために、外部委託で年4回の削蹄を行うとのことでした。視察に訪れた日も、実際に牛舎内で実施していました。



ジェイコブス牧場

3軒目の視察先のサミットホルムホルスタインズファームは、飼養頭数が650頭、ミルクングパーラー搾乳形式で、3回搾乳を実施しているという大規模経営の牧場でした。衛生面においては、フリーストール牛舎の牛床には全て砂が敷いてあり、乳頭口からの雑菌の混入防止や、肢蹄の疾病を予防しているということです。生徒も「おがくずを敷いているのは見た事があるが、全てのベッドに砂が敷いてあるのは初めて」と驚いていました。



ロイヤルショーの様子

ロイヤルショーでは様々な家畜のコンテストなどと共に世界に名高いホルスタインショーを見学しました。会場は見学者であふれており、家畜のショーだけではなく、関連商品のブースや展示もあり、日本

の共進会とは全く違うことを思い知らされました。出品牛はどの牛も素晴らしく、日本と比べ、尻や肋腹の構造に大きな違いがありました。また乳器も幅、高さとも素晴らしく、更にその牛たちを引き立たせる出品技術にも圧倒されました。

研修期間中は好天に恵まれ、酪農視察の他にもナイアガラの滝やケベックシティの見学もできました。今回は学校単独ではなく、酪農家の方や酪農雑誌関係の方とご一緒させていただきましたが、どの方にも大変親切にいただき恵まれた研修となりました。ご支援いただきました別海町、別海町酪農後継者を育てる会(原井松純会長)ならびに関係者のみなさんに心からお礼申し上げます。

●【専攻科】修了研究活動発表会実施

11月28日(月)修了研究活動発表会が実施されました。2年目学生が1年間自家の課題解決のため、研究に取り組んだ成果を発表するものです。



学生発表の様子

今年度は、「子牛の暑熱対策の検討」、「性選別精液の利用による経済効果について」、「TMR品質向上～食い込める餌を作るために～」と題して3つの発表がありました。それぞれ、子牛の夏場の暑熱対策、性選別精液を導入した時のコストの考察、良質なTMR製造による飼養管理の結果を発表し、関係機関から6人の講師の先生より、様々な視点から助言やご意見を頂きました。専攻科を修了してからもご助言いただいたことを参考に、今後の経営改善に継続して取り組んでほしいと思います。

●【専攻科】根室管内青年農業者会議へ参加

12月7日(水)に根釧農業試験場にて根室管内4Hクラブ連絡協議会・北海道根室振興局主催の第42回根室管内青年農業者会議が開催され、学生8人が参加しました。この会議は、管内農業の担い手として実践活動を行っている青年農業者が、実践活動を通じて身につけた知識や技術の交換を行い、相互の交流を深める会議です。



アグリメッセージ発表の様子

アグリメッセージ部門では、1年目学生の佐伯遥さんが別海高校農業特別専攻科として発表しました。東京から別海に來道し、酪農についての熱い思いを述べていました。結果は堂々の優秀賞でした。本人は結果に満足した様子でした。参加学生は、次年度の青年農業者会議の入賞に向け、取り組んでいきたいと話していました。

株式会社なかしゅんべつ未来牧場 関連施設工事の進捗状況

9月より着工しました搾乳舎等の建設は、厳寒期を迎え急ピッチで工事が進んでいます。

例年より早い降雪に見舞われ、除雪作業などで苦慮しておりますが、乾乳舎、哺育育成舎、堆肥盤、スラリーストアーはそれぞれ完成し、搾乳舎は基礎工事と併せて鉄骨組立工事が終わり、随時屋根工事に移ります。

事務所、管理人住宅は1月の完成見込みで、研修生宿泊棟は3月の完成を目指し工事が進められています。

また、搾乳牛の導入は、乾乳舎が完成したことから、4月以降の分娩予定牛を購入するため、今後、地区内生産牛を中心に購入してまいります。



11月 乳質乳価一覧表

(単位:円/kg)

11月分乳代支払単価

			単 価	算 出 基 礎	支 払 額	前 年 期	差	項 目	単価(円)/(kg)%
乳 脂 肪 分			913.331		37.43	36.67	0.76	乳 脂 肪 分 ①	37円43銭
無 脂 乳 固 形 分			579.714		51.41	50.65	0.76	無 脂 乳 固 形 分 ②	51円41銭
補 給 金			3.9574		3.96	4.15	-0.19	補 給 金 ③	3円96銭
計 画 チーズ 奨 励 金			1.4882		1.49	1.71	-0.22	チ ー ズ 奨 励 金 ④	1円49銭
乳 質 単 価	生 菌 数	ランク1	2	209,218,918.7kg	3.75	3.77	-0.02	脂 肪 率 全 道	4.10%
		ランク2	0	6,119,736.9kg				脂 肪 率 農 協	4.14%
		ランク3	-3	238,091.15kg				無 脂 固 形 分 率 全 道	8.87%
	体細胞数	ランク1	2	258,776,969.1kg				無 脂 固 形 分 率 農 協	8.84%
		ランク2	1	20,508,575.1kg				成 分 乳 価 全 道	94円29銭
		ランク3	-2	3,464,309.4kg				①+②+③+④=⑤ 農 協	94円55銭
合 計					98.04	96.95	1.09	乳 質 乳 価 ⑥ 全 道	3円75銭
								乳 質 乳 価 ⑥ 農 協	3円73銭
								乳 代 合 計 全 道	98円04銭
								乳 代 合 計 農 協	98円28銭
								⑤+⑥ 差 異	0円24銭

関連会社より新年のご挨拶

旧年中は格別のお引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。
本年も倍旧のご愛顧の程お願い申し上げます。
平成29年 元旦

- 自動車の点検・整備・検査・農機具の修理
- 自動車・農機具の販売<北海道陸運局指定整備工場>



代表取締役 小 湊 保

別海町中春別南町3番地 TEL(0153)76-2117・FAX(0153)76-2278

謹んで新春のご祝詞を申し上げます

旧年中は格別のお引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。
本年もご愛顧の程お願い申し上げます。
平成29年 元旦

- 支援農作業の一切

WAMP (有)ジェイエー・ワンブ

代表取締役 小 湊 保

別海町中春別南町3番地 TEL・FAX(0153)76-2861

旧年中は格別のお引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。
本年も倍旧のご愛顧の程お願い申し上げます。

平成29年 元旦



訪問介護ステーション「あさひな」

別海町中春別南町3番地 中春別農業協同組合2階
TEL・FAX(0153)76-3383



酉

高橋徳正(春城)さん書



「十二支・酉の由来」

十二支の10番目の干支が「酉」です。

「酉」の本来の読みは「ゆう」です。

口の細い酒つぼを描いたもので、「酒」に関する字に用いられ、収穫した作物から酒を抽出する意味や、収穫できる状態であることから「実る」も表します。つまり果実が成熟した状態を表していると考えられます。

これを「にわとり」としたのは、無学の庶民に十二支を浸透させるため、動物の名前を当てたものですが、順番や選ばれた理由は定かではありません。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。組合員みな様ご家族揃って輝かしい新年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

昨年は組合日より「なかしゅんべつ」を愛読いただきましてありがとうございます。また、取材にも快く応じていただきましたこと感謝申し上げます。「いつも楽しみにしているよ」「写真上手に撮れているね」と温かい言葉をかけていただき、もともと地域のでき事や組合員さんをクローズアップして、今年も皆さんに愛され、親しまれる紙面づくりに努力いたします。

昨年は長雨やたび重なる台風により営農される組合員さんにとっては、苦勞の多かった1年ではなかったでしょうか。

昨年喜から「忘年会」、そして年あけから「新年会」とお酒を口にする機会が多くなっているのではないのでしょうか。お酒の飲み過ぎや体調管理には十分気をつけてください。また、「このくらいなら大丈夫だろ」「すぐ近くだから何でもないだろ」と、ハンドルを握るのは絶対によめてください。ちょっとした心のゆるみで一生台無しになることもあります。道路もアイスバーン状態ですので安全運転に心がけてお過ごしください。

今年も西年、天候にも恵まれ、穏やかに豊穰の秋になることを祈ります。